

平成 22 年度 第 2 回鎌倉市次世代育成支援対策協議会 会議概要報告書

日時：平成 22 年 11 月 12 日（金）

午前 10 時～12 時

会場：第三分庁舎 講堂

次 第

開会

1. 平成 22 年度次世代育成への取組状況について
2. 「鎌倉きらきら白書」への市民意見等について
3. 子育て支援の取組みについて
4. その他
(1) 事業仕分けの結果について

出席者（敬称略）

委員長 松原 康雄（明治学院大学 教授）
委員 兵藤 忠洋（鎌倉青年会議所 専務理事）
菅尾 成彦（鎌倉商工会議所 青年部会長）
金川 剛文（鎌倉市社会福祉協議会 常務理事）
渡部 俊子（鎌倉保健福祉事務所 保健福祉課長）
遠藤 玲子（鎌倉市民生委員児童委員協議会 主任児童委員）
松落 道子（かまくら子育て支援グループ懇談会 代表）
宮内 淑江（鎌倉市手をつなぐ育成会 会長）
毛利 宏乃（鎌倉市保育園保護者連絡会 副会長）
上原 謙一郎（鎌倉私立幼稚園協会 振興部長）
坂本 由紀（鎌倉私立幼稚園父母の会連合会 委員）
兵藤 嘉子（鎌倉市立小学校長会 御成小学校長）
尾利出 篤（鎌倉市立中学校長会 岩瀬中学校長）
橋本 成一郎（鎌倉市 PTA 連絡協議会 書記）
小坂 泰子（鎌倉市青少年指導員連絡協議会 副会長）
糸賀 明広（市民公募委員）
本多 尚子（市民公募委員）

欠席者（敬称略）

新保 幸男（神奈川県立保健福祉大学 教授）
富田 英雄（鎌倉市保育会 会長）

庁内推進委員会委員

佐藤こどもみらい部長、相澤こどもみらい課長、青山文化推進課長、左藤安全安心推進課長、植地人権・男女共同参画課長、進藤保育課長、田中こども相談課長、山田青少年課長、安田発達支援室長、茶木障害者福祉課長、相川市民健康課長、相澤保険年金課長、伊東公園海浜課長、八神教育

指導課長、島巡教育センター所長、松平教育センター所長代理、鈴木生涯学習課課長代理、柿崎スポーツ課長

開会

委員長・・・・・・・・ おはようございます。定刻になりましたので、今年度第2回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を開会いたします。皆様方にはお忙しい中ご出席頂きましてありがとうございます。

それでは、お手元に会議次第が置かれていると思います。この会議次第に沿って進めてまいりたいと思いますが、まずは資料の確認をいたしたいと思います。事務局の方からお願いいたします。

事務局・・・・・・・・ 皆さんおはようございます。こどもみらい課推進担当担当係長の戸川と申します。よろしくをお願いいたします。

本日まず、新保副委員長と富田委員からご欠席の連絡を頂いておりますので、報告させていただきます。

〈資料確認〉

次第1. 平成22年度次世代育成への取組状況について

松原委員長・・・・ それでは議事に従いまして進めてまいります。まず、次第の1でございますね。平成22年度次世代育成の取組状況ということで事務局から説明をお願いします。

事務局・・・・・・・・ 〈平成22年度次世代育成への取組状況について説明〉

松原委員長・・・・ ありがとうございます。実際に中身でどの位進捗してきたかについては、今年度3回目のこの対策協議会で皆様方からご意見を頂きたいと思っておりますので、これまでどういう取組がなされてきたのかということで、取組に関するご意見とかご質問とかあれば。特に市民周知等なにかご意見があれば頂きたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

特にないようでしたら、市民の方からのご意見は、きらきら白書についてでも出ておりますので、これについて今日はメインに議論をする中で、取組についても何かご意見が頂ければと思います。

次第2. 「鎌倉きらきら白書」への市民意見等について

事務局・・・・・・・・ こどもみらい課推進担当の石渡と申します。よろしくをお願いいたします。

〈「鎌倉きらきら白書」と意見募集の方法について説明〉

例年、白書を発行した際には、このような形で意見を募集しておりましたが、頂いたご意見は参考にさせて頂くのみで、回答は作成しておりませんでした。

今回は協議会委員の皆様、市民から寄せられた意見等に対する市の考え方をお示しするとともに、ご意見をお寄せ頂いた方にも公表できたらと考え、この内容について、ホームページに掲載したいと考えております。

また、協議会委員の皆様からこれから頂くご意見につきましては、会議録上で公表という形になりますが、今回、もしできましたならば、この市民意見、資料3の表紙をめくって頂くと、表になっておりますが、この中に協議会委員の意見という形で一欄設けさせて頂いて、分かりやすくご意見として発表できたらということも考えておりますので、ご協議頂きたいと考えております。

松原委員長・・・ 中身の議論に入る前に、公表の仕方、市民へのフィードバック、我々のここでの議論の市民へのフィードバックの仕方について、まずそれをご相談したいと思います。

もちろんこの対策協議会は、今日いらっしやいせんけれども、オープンで傍聴も出来ます。それで、後日議事録という形で公開もされますが、一覧表ということで言うと、議事録を見て、表を見てというと、なかなかここでどういうご意見が出たということが市民の方に分かりにくいので。もちろん〇〇委員とはしませんが、ここに出てきたご意見、例えば主たる意見という形で、資料の1の一覧表の一番右側のところに付け加えて出すとどうだろうと。例えば、実際中身ではないのですが、資料3の一番上を見て頂きますと、無回答が3人いらっしやるのですけれども、全員女性なのです。例えば「男性からの意見が出てくると良いですね」というのも総体的な意見のところで一覧表の一番右に挙げておくという感覚です。あるいは「この意見はもっともなので、もっと市も頑張ってもらいたい」とかですね、あるいはちょっと厳しいかもしれませんが「この市の回答ではまだまだ不十分だからもっと頑張ってもらいたい」とか、そういうような形の意見を集約して、今日まとめて頂いたものを1回皆様のところへは見て頂くように事前にチェックして頂きますが、そういう形で公表するか、まあそこまでするとなかなか意見が言いにくいので議事録レベルで我々の、せっかく今日このように集まって頂いておりますので、意見を市民にお返しするかという、二通りのやり方があるかなと思います。後者のほうは従来どおり議事録で公開。前者のほうは新しい方法になります。これは協議会委員の皆さんのご意見に従いたいと思いますので、何かお考えがあればご意見頂きたいと思います。

いかがでしょうか。

市民感覚として、糸賀さんと本多さん市民代表で出て頂いておりますので、いかがでしょうか。

糸賀委員・・・ 僕も中身をそんなに把握しているのではないのですが、確かに男性からの意見

というのが全然無いというのが、実際に自分も仕事をしていて日常生活というのがあんまり平日は住んでいるところには無いなというところではあるのですけれども、例えば、ここの告知の仕方のところで、やはり男性からのとかそういうことがどんなふうに使われていたのかなど。男性とか意識しないで撒いて意見を取り入れたのだと思うのですけれども、結果を見ると幅広くというよりは、やはり65名という数も少ないような感じがするので、数を取るということと、やはり性別を広げるような活動というのは必要だと見て思いました。

あと、これをひとつ公表することというのがそういうことの刺激になると思いますので、先ほど話に出た公表の仕方とかそういうことについては、こういうことをどんどんフィードバックしていくとかそういうことを続けていくのが良いのではないかとこのように思いました。

松原委員長・・・ 公表の場合に、ここで出た意見を一緒にくっつけるということについてはいかがでしょうか。

糸賀委員・・・ 意見のくっつけというよりは、僕はシンプルにここでやったことをちゃんと戻すということがまずあった上でということが良いと思います。

松原委員長・・・ 本多さんいかがですか。

本多委員・・・ 子育て支援センターに来ている方が主に回答しているというような感じがすごくするのですけれども、子ども会館というのが午前中他のお母さん方がいらっしゃっていると思いますけれども、例えばそういう所だと、係りの方がいらっしゃるので、そういう方がお声掛けをして「よかったら意見をください」という感じにすればもう少し、子育て支援センターは3つですが、それ以外の方の声も聞けると思いますし、例えば市役所ではなくて、行政センターとかそういった所でも募集箱があると出すのですけれども、わざわざ市役所までくるとなるとなかなか集まらないということがありますので、いろいろな所で意見箱を置いておくということだけでも多少意見が増えるのではないかと感じました。

松原委員長・・・ フィードバックの仕方についてはいかがですか。

本多委員・・・ こういうのがありますよというのは、それぞれを付けてもなかなか見ないと思うのです。なので、こういうのが載っていますという情報をHPに載っていますとかどこに行けばそういう資料がありますというので良いかなと思います。

松原委員長・・・ ありがとうございます。公表の仕方で、概ねHP等に掲載するというのではご賛成のようですので、生協の白石さんでは無いのですけれども、出た要望については

市の見解も加えて出すということで。そこにわれわれの意見を付けるよりも、これはこれとしてそのまま戻したほうがいいのではないかというご意見が糸賀委員から出ておりました。では、今日の議論のところは、議事録ということで別にオープンにするという形にしましょうか。しばらくそれでやってみて、やりかたを考えたいと思います。

事務局に質問なのですが、本多さんのご意見にもあったのですが、このHPを例えば公表しますね、ここの部分へのアクセス数というのはカウントできるのでしょうか。

事務局・・・・・・・・メディアスポットのHPがあるのですが、そのHPへのアクセスについてカウントはしているのですが、その特定のページについてカウントできるかについては確認してみないと分かりません。

松原委員長・・・・せつかくこういう形で公表するのでこれも読んで頂くということが必要だと思います。

それでは、中身についてはこれから説明して頂き、この場で議論を進めたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

事務局・・・・・・・・＜「鎌倉きらきら白書」に寄せられた意見について説明＞

松原委員長・・・・今日お手元に資料3が届いておりますので、口頭の説明ではちょっと全部ベタでやっていますと時間がかかりますので、むしろ皆様方にお読みいただき、その先ご意見頂きたいと思いますので、とりあえず、10:35くらいまでざっとお読み頂く時間を取りたいと思います。よろしく願いいたします。

それではいかがでしょうか。

坂本委員・・・・今日の会議に出席するにあたりまして、実は私の園のほうで、子育て中のお母さんたちの意見を聞いてきたのですね。非常に限定的ではあるのですがけれども、そちらのほうと重なる部分が今日の意見書の中にもありましたので、それについて少しお話させていただきます。

わたし達の園のほうでも、ちょうど前の会議で、夏休みの居場所がないという話があったので、そちらのほうに限定しまして、「今年の夏休みどうした？」ということで、本当にわずかなお母さんの意見なのですけれども聞いてみました。

皆さん幼稚園児のお母さんたちですので、お子さんを連れてどこかへ行くという話なのですが、どうしても鎌倉の場合地域差がすごくありまして、たまたま聞いてご意見をくださったお母さんは十二所の方で、ちょっと遠いところだっ

たので、非常に不便を感じていると。それはもう仕方のないことで、鎌倉の場合、大きな公園と、9ページにも公園のことが書いてありますけれども、大きな公園だと非常に大変だと。それを市内に、みんなが便利なところというのは大変なのですけれども、その代わりに小さな公園がたくさんある。あるのですけれども、お子さんがいない、行きづらいとか言っていました。

こちらの9ページのところで、「遊びやすい公園が少ないです。」というところなのですけれども、ここにもありますが、小さな公園というのは住宅地の真ん中にあることが多いのですね。それで、私たちもそうなのですけれども、このごろ世の中が世知辛いというか、子どもさんの声に非常に敏感であったり、物があたってたりということに敏感な住民の方もいらっしゃいます。または地域の方が猫などを飼われていて、猫の糞害が公園を汚していて衛生的に使えないという不便なこともあります。でも、私たちとしては、市の設定された公園であろうかと思うので、ここにも書かれているのですけれども、周辺住民の方々のご理解が得られないというところはどのようなのでしょうか。今設定されている小さな公園に関してはご理解を得られていて、私たちが堂々と子どもを遊ばせられる環境にあると思ってよろしいのでしょうか。それがもし充実していればもっと子どもが行きやすいのではないかと思います。まずそれが1点。

それからもう1つ、プールの話なのですけれども、夏休みにずいぶんプールを利用しましたと。券をいただいていますよね。保護者にはタダで行けますという券をいただいておりますのですごく行きやすかったと。これはその方の噂という話なのですけれども、確認してほしいと言われたのですけれども、坂ノ下の市民プールというのは閉鎖にはならないですか。というのは、そういう噂を聞いたという話があるのですね。それを今日伺えるかどうか分からないのですけれども、ぜひとも残して頂きたいですし、いい施設ですというお話でした。それがプールの件でした。

次に、ファミリーサポートの件なのですけれども、今政府のほうでも、小さな保育園というか、家庭で預かるような保育施設というものを推進していると思えますけれども、ファミリーサポートに関してここには急増していますということなのですけれども、稼動的にはどのようなのでしょうか。私などは両親が遠くにおりますのでこういうことはすごくいいことだなと思うのですが、こちらもすごく地域差が非常にばらけていると思うのですね。支援会員さんの場所がばらばらであるということもあろうかと思いますが、それと周知がなかなかできていないのかなと思うこともございます。その辺どうでしょうか。

それと、中学生の親としての立場でお伺いしたいのですけれども、7ページにあります「家庭や地域の教育力の向上」というところで、今本当に中学校の現場で、大変な問題があらうかと思えます。ただ、この間私の子どもが通っている中学のほうでも話し合いがあったのですけれども、それぞれの中学が悩みを抱え込んでいるようなところがありまして、この繁華街をうろついたりというところが

もっともっと地域的な大きな枠組みで考えたらいいのじゃないのかなというところがあるので、そこらへん中学校は中学校の中だけで考えているのか、いや、もっと広く連携していますよという今の動きがあるのか、その辺を、これは1親の意見ですけれども伺ってみたいと思いました。中学生の問題というのは本当に最悪のほうに行きかねないというのを聞いています。それをもっと地域で、鎌倉の場合は、本当に地域性のあるいい土地柄だと思いますので、その連携というのをどうかして頂きたいと思いますので、その辺を先生に伺えたらと思っています。

松原委員長・・・ はい。4点ご意見が出ましたが、事務局お答えができますか。

公園海浜課長・・・ まず、街区公園の近隣の苦情についてのお話ですけれども、市内に227箇所の街区公園があるのですけれども、ほとんど市が設置した公園ではありません。当時、昭和30年代から40年代にかけて開発がいろいろなところで起きた中で開発業者が設置した公園がほとんどでございます。ですから、周囲には住居が建っていないので、街区公園を作ったときにはそういう反対意見は無いというのが現状でございます。それで、現在市が作った公園というのは、材木座にあります「たぶのき公園」とか、梶原に「六本松公園」を造ったのですけれども、その時は特に苦情などは無く、無事にできた形にはなっております。使い方の苦情については、ボールが飛んでくるとかそういうものはありますけれども、お子さんの声がうるさいという声はほとんど無いような状況ですので、安心して使っていただいて結構だと思います。以上です。

スポーツ課長・・・ ただいまのご質問の中にありました海浜公園プールのこれからのあり方についてですが、プールは、今年の夏までは、毎年7月から9月初旬に開いています。実は、あそこの海浜公園プールというのはご存知かもしれませんが、昭和30年の建物でございまして、入口に管理棟というところがありまして、ここに入って着替えて、荷物を預けて、シャワーを浴びてプールに入っていくところです。また、プールのほうも長年経過して老朽化が進んでおりまして、修繕を重ねて、なんとか今のところ使える状況にはあります。ただし、管理棟は、昭和30年の建物で、建築物としてすでに50年、半世紀以上たっておりますので、あそこの建物がこれから安全に使えるかどうかという問題があります。実は来年度の予算は、これからののですけれども、基本的に管理棟部分についての安全度、例えば、地震の耐震基準をとってみますと昭和30年の建物ですので、老朽化の状態も含め、現時点で安全であると言いきれない部分がありますので、調査を1回する必要があると考えています。その予算を要求したいと思っております。その結果を見て、どういった形の耐震改修ができるのか、また、建て替えをしないとイケないのかなどのことも踏まえまして、総合的に安全確保ができるような施設としてリニューアルをしていければなと思っております。

こども相談課長 ファミリーサポートセンターは平成 21 年度の段階ですが、支援をしていただいている会員の方というのが、育児支援についてコメントさせていただきますと、473 名支援会員の方がいらっしゃいます。先ほど地域ということでお話ございましたので地域の割合というのをお話させていただきますと、百分率は出しておりませんので、正数だけで数字でいきますと、鎌倉地区で 148 名の方が登録頂いております。行政センターで区域分けしておりますが、深沢地区では 82 名、腰越地域が 62 名、そして大船地域が 122 名、玉縄地域が 59 名ということで登録を頂いております。これまでの登録頂いている会員さんの増加の傾向なのですけれども、年間 10% ずつ、また多いときには 20% という形で会員さんの数が増えてきている状況でございます。しかし、利用される方、また支援会員双方につきまして、やはり会員の周知というのはしていかなければならないと事務局でも十分考えております。たまたまこの会議に出てくる前にもチラシをどうするだとか、どういうふうに撒くのかという話を一つしてきたところでございますけれども、やはりいろいろな子育て中の方々が目に触れるような場所、今までですとどうしても行政センターの窓口ですとか、市の担当窓口などが多かったのですけれども、それよりも子どもさん連れの親子がこのチラシを見てくれるのかというところを考えながら周知、啓発、広報していかなければならないと先ほども話し合っていたところでございます。以上です。

松原委員長・・・ 中学校の件お願いします。

教育指導課長・・・ 様々な問題行動を抱えている中学校同士の連携ということなのですけれども、確かに最近、問題行動の多様化ということで、以前のように学校の中だけでは解決できないことというのは多くございます。

以前から、中学校について言いますと、各学校に生徒指導担当、生担と呼ばれる教員がおりまして、その生担が毎月 1 回様々な情報交換を行って、より良い解決方法、問題行動があるような学校に対してはより良い問題解決の方法等を論議したり、情報交換したりしています。

また、学警連、学校と警察の連絡会というような形で、これも年に何回か、それぞれ鎌倉警察署、大船警察署の管内で、その管内の中の、これは中学校だけではないですけれども、学校、警察、教育委員会が集まって、情報交換や対策など、健全育成のための会議を設けております。

また、先ほども申しましたように、問題行動の多様化ということで、学校だけでなくいち早く先ほど出ました警察ですとか、あるいは市のこども相談課ですとか、あるいは児童相談所といった福祉の関係と連携をとるように今進めているところです。

松原委員長・・・ 委員の中に岩瀬中学校の校長先生がおられましたね。

尾利出委員・・・ 現場の校長の声ということですので、少しお話させていただきます。

おっしゃるように、中学校だけでは様々な課題を解決することは大変困難です。そこで、以前から保護者や地域の方と連携を深めていかなければならないと考えています。具体的に地域との連携を深める組織として岩瀬中学校では、地域青少年育成懇談会という組織があります。岩瀬中学校と学区内にある小学校と高校、自治会・町内会、青少年指導員の方、民生児童委員さん、少年野球や少年サッカーチームなどのスポーツ団体を含めて組織されています。

地域青少年育成懇談会では、毎月、世話人会を3小学校持ち回りで開催し、その時その時の課題や問題などの情報交換を行っています。

それから、1年に1回、先日11月6日の土曜日に「子どもフェスティバル」という名称で地域青少年育成懇談会が主催する地域の子どもたちが集うフェスティバルを大船小学校のグラウンドをお借りして開催しました。「子どもフェスティバル」は岩瀬中学校と3つの小学校の4校が持ち回りで行っています。今年が大船小学校で、来年が小坂小学校、次が岩瀬中学校、そして今泉小学校という具合に4校で会場を回して行っています。

それと、5月に各団体の代表者が集まり、子どもたちが健全に育っていくために連携を深めることを目的に地域青少年育成懇談会代表者会を開催しています。本校にとりまして、この地域青少年育成懇談会の活動が子どもたちの健全育成に大きく機能して頂いていると思っています。

青少年課長・・・ 青少年の非行防止活動ということで、青少年課としても、毎月1・2回青少年育成街頭指導員の方、これは中学校の生担の先生9人と、一般の中学校から推薦を受けた市民の方12人で21人いらっしゃるのですが、そういった方たちと、大船駅周辺のカラオケボックスやゲームセンターといったところを6時くらいから1時間ほど回って、中学生、あるいはそういった時間帯にはいけないような子どもたちがいないかということで回っております。また、各中学校区の方も車でですけども生担の先生と、市民の方々と一緒に各学区の方を回るというようなことも行っております。

また後ほどご説明しますが、私どもとして、今日なのですけれども青少年健全育成推進該当キャンペーンということで、鎌倉・大船駅周辺で、大人の方、いろいろな団体の方、中学生、高校生も参加してもらってそういったご奉仕に取り組んで頂くことによって皆さんに知って頂きたいということで、キャンペーン活動を年2回ほど、7月と11月に実施しております。

松原委員長・・・ 他の委員の方から、関連してでも、また新しい項目についてでも結構ですのでご意見があれば伺いたいと思っておりますがいかがでしょうか。

小坂委員・・・ 先ほど岩瀬中学の校長先生がおっしゃっていたように、腰越の方でも西鎌倉地区の方では、西鎌倉地域教育懇談会というのがございまして、地域と学校と連携しながらいろいろな意見交換をしていますし、それから腰越の方でもそういう類の集まりを持っているということです。一応両方として情報提供です。

松原委員長・・・ 日頃、子育てをされているご家庭を支えているような立場で皆さんご活躍されていますので。

本多委員・・・ 先ほど、中学生のお話なのですが、7ページの方に、繁華街をうろついたりしないようにというところの回答で、子ども会館は中学生も来られますというふうに書かれているのですが、中学生を見たことというのが無いのです。中を見ても、小さな子どもが遊ぶおもちゃが多いですし、小学生の低学年のお子さんが子ども会館は主で、学童をされているので、そのお友だちという感じで来る子はいるのですが、それ以上のお子さんというのは、私のいる地域では見たことが無いです。

横浜の方の子どもの家という施設があると思うのですが、そちらの方は祝日などもやっておりますので何度か行ったことがあるのですが、小学校高学年から中学生のお子さんでもアスレチックのようなものがあるので、楽しく遊んでいるようなので、やはり子ども会館がせつかくあるのであれば、もっと活用できるような、幅広い年齢の子が遊べるような施設に変えていかないと、その街でうろついている子の受け入れ先というのが、今は全くないのではないかという感じがします。

松原委員長・・・ 子ども会館そのものは小学生に偏ってしまうというご意見は、前々からいくつかの審議会等でも出ておまして工夫されていると思いますが、なにか事務局からありますか。

青少年課長・・・ お話のように、今子ども会館の平成21年度の数でいいますと、全体の利用数というのがございまして、年間63,000人ほど会館に訪れておりますけれども、中学生が2,600人程度ということで、確かに少ない状況です。

一つは、中学生自身が、なかなか部活動で忙しいというようなことがありますし、子ども会館の終りの時間が5時ということでございまして、授業終了後の時間として使える時間が無いようです。そのような理由と考えております。今、特別中学生のために、こういったことをやっているということは申し訳ないのですがございせんけれども、今言った開館の時間ですとか、先ほどお話にも出ましたけれども、日曜日の開館といったことも、今後検討してまいりたいと思っています。

宮内委員・・・ 私は、障害児の会の代表ですので、基本目標4子どもと子育てにやさしいまちづくりというところで少しお話ししたいと思います。

今年のゴールデンウィークです。長いお休みでした。私たちが運営しているのんびりスペースや、深沢の障害児支援センターもこういった時はお休みになります。障害児を抱えたお母さんがどこにも行くところがなくて、公園に行きました。ところが、公園で子どもが大きい声を出したりして、他の子ども達とうまく遊べないものですから、しょうがないのですけれども。そういうときに周りの方から「うるさい」、「帰れ」と言われてしまいました。そのお母さんは夏休みなどの長期休みは「のんびりスペース」が開いているので良いのですが、ゴールデンウィークとか、そういうお休みのとき行く所が無いので、お休みなんて無ければ良いのに、とすごく悲しまれまして、私の方に相談という訳ではないのですが、言って来られました。鎌倉に住んでいてとても悲しい思いをしたとおっしゃっていました。子育てというのは健常児だけでなく障害児も鎌倉には育てているのだと、思います。本当に障害児は増えているのです。障害のあるお子さんに対する理解というのが、本当に鎌倉は進んでいないなとそれを聞いてとても悲しかったです。そして何にもお手伝いができなかった自分も悲しかったし、そういったことが鎌倉にあるのだということを知って悲しい思いをしました。

ですから、子どもと子育てにやさしいまちづくりというのは、健常者だけでなく障害児者にもやさしい鎌倉になってほしいと思いました。ぜひ、学校でも統合教育などいろいろありますけれども、子どもたちの方が却って優しいくらいなのですね。障害児への理解というのもやはりお母さん方にも分かって頂きたいなと思いました。

松原委員長・・・ 障害のあるお子さんをどこかで囲い込んでしまうのではなくて、地域全体の中で一緒に生活をして育ててもらおうというのは大切ですので、これは地域のそういう風土づくりと言いましょか住民全体の理解が必要なのかなと思います。

皆様方も含めて、いろいろな所でそういう理解が進むような形でご発言頂きたいと思いますし、行政でも、どこの部署ということではなくて、さまざまな部署で障害のあるお子さんを子育てされている方の理解と協力を進めるようにして頂きたいと思います。

鎌倉でそういうエピソードを聞くと非常に残念ですね。

坂本委員・・・ 先ほどの中学校の件なのですけれども、今言われましたとおり時間の感覚の違いというのを皆さんにお伝えしておきたいなと思います。

実は私も中学生の子どもを持つまで分からなかったのですけれども、本当に今中学生が居場所がない時間というのが非常に遅くなっているということですね。というのは、塾へ行くというのが前提のような世の中になっていて、これは、現

実の話なのですけれども、クラブが6時なり、6時半なりまでやった後、塾が8時ごろから9時とか、その間の時間を1回家に帰ればいいのですけれども、帰らずに親がお金を渡して、「どこかで食べていきなさい」というようなことが本当に多いようなのですね。私たちが子どもの頃は考えもしなかった9時、10時が平気な親御さん、子どもたちになっているということなのですね。そしてそれを、5時までだとかいう時間でくくってはおれないという世の中の状況がありまして、その辺が非常に難しいことだと思います。

それに関連して食育という意味で、子どもにお金さえ持たせておけばそこいら辺で買うでしょうというふうにお金をもらった子どもは、お金をお小遣いにしたいがために、食をおろそかにしたり、そういうことまで今出てきていると聞いています。なかなか行政の方で夜まで面倒を見ろというのは難しいかと思いますが、例えば警察の方に協力をお願いしてケアをして頂くだとか、そういう時間を越えた対策というのは本当に必要ですし、その時間こそが非行につながる、本当に怖いことにつながるということを親も知らなければいけないし、周りも知らなければいけないし、本当に10時までみんな平気で歩いていますよね。実際に女生徒の場合怖いこともあります。その危機感が子どもにも親にもなさすぎる。なかなかそれをカバーすることは難しいとは思いますが、周知するということが大事なことで、今本当に子どもの時間が上に、遅く繰り上がっているということを申し添えておきたいと思います。

松原委員長・・・ ちょうどその塾の空き時間というのはですね、私が関わっているチャイルドラインという子どもの電話相談にいたずら電話が増えるのですね。電話口の向こうに友達が何人かいて、ワーワー騒いでいるのですけれども、私は電話を受けてくださる方たちに「どんどんいたずら電話をもらっていいよね」という話をしていて、そのエネルギーがチャイルドラインで吸収できればいいのじゃないの。「この時間帯はそういう電話を受けてあげようよ」と話をしていて、おっしゃることはよく分かって、その時間帯は本当に。結構小学生も塾の空き時間なので、そういう電話が増えてますね。

松落委員・・・ 今、食育というお話が出たのですけれども、私は、ここの場には子育て支援グループ懇談会の代表として出ているのですけれども、つどいの広場事業というのも、一緒に合わせてさせて頂いていて、ここの中で子ども会館等々の食育についていくつかあったのですけれども、お母さんの方から、子ども会館で食事ができないということがずっと言われていたのですけれども、ようやくお母さんからの要望もあってだなというのが今初めて分かって。私たちもずっとお願いしますということは言っていたのですけれども、やはり利用者の声が大きくて、もう11月から子ども会館でお食事ができるようになりました。

つどいの事業をやっていると、子ども会館の指導員以外にプラスα、アドバ

イザー的に付いておりますので、よりやりやすい。来るお母さんもだんだん顔見知りが増えてくるので、最初のころは「お弁当を持ってきて良いのですよ」と言っても、「そうなんですか」というだけでなかなか持ってこなかったのですが、このところ何回か、玉縄子ども会館の方では、ブルーシートを敷いたら、とても微笑ましいのですね。みなさんがシートの上に乗かって食べていると、1歳から2歳くらいの乳幼児のお母さんたちが、親子2人ではなかなか食べられないものが、ここでだと食べるだとか、誰かが一人歩きを始めてしまうと誰かが注意して。シートの上で食べようということだけは約束しようということには言っています。

最初は、「お弁当を作るのが大変」という方も、「おにぎりでも良いじゃない」とお子さん同士とか、お母さん同士ほうができていくという感じがあってとても良いなど。

食育というのも本当に小さいところから、まずはということが必要だなということは感じています。ただ、現実として、お母さんたちは母乳をなかなか卒乳できなかつたり、離乳食が進まなかつたりというところには、食事を作ることが面倒くさいと思っている方が多くいるのではないかなど。もちろん面と向かってそんなことはおっしゃいませんけれども、そういうような感じは受けています。とても親の立場としても、一緒に育っていくということが大変だなという現実。若いママさんたちにご飯の大切さというのがなかなか難しい。自分一人ならこれで済ませちゃうのにというところを、子どもにだからやらなきゃいけない、それがプレッシャーになって、おっぱいでいいやという風になっているのも一つの原因としてはあるということをお伝えしたいと思います。

松原委員長・・・ それとの関連で、子育て支援センターは飲食まだ禁止なのですよ。

こども相談課長・・・ 子育て支援センターのほうは、スペースが無いということで、子どもの活動スペース以外の所に動いて頂いて、そちらの方で食べて頂くという形をとらせて頂いております。

どうしても、複合施設の中のお部屋を一か所使ってということで、専門施設という形をとれなかったというところも当初の施設はございましたので、そこはまず食事のスペースということで、少し場所を離れたところで食べて頂いているという形をとって頂いています。

あと、自動販売機を設置してくれという要望についてですが、お水が無いからということだったのですが、先ほどの食育とつながるところなのですけれども、赤ちゃんを連れて外出するのに、お水を持たないでいらっしゃるお母さんがいるということで、私これを読んでビックリしたのですけれども、外出時の水分補給については、自動販売機が無いと水分補給ができないことについて、水筒を用意するなど、いろいろな形でアドバイザーを通じてお話をしていかなければいけな

いのだなというのもこのアンケートの中で感じさせて頂きました。

次第3. 子育て支援の取組みについて

事務局・・・・・・・・ <子育て支援の取組みについて説明>

松原委員長・・・ 我々のお仲間の宮内委員が賞を取られましたが、この資料の説明について、ご質問等おありになるでしょうか。

宮内委員から一言頂きましょうか。

宮内委員・・・・・・・・ ありがとうございます。この「かながわ子ども・子育て支援大賞」というのは、自薦なのですね。県のホームページを見まして、自薦、他薦OKでしたので、私自分で出しました。おかげさまでこういう賞を頂きまして、副賞は5万円だったのですけれど、大賞の方は10万円で、ネグレクトとか児童虐待防止関係の団体の方がとられまして、その場ですぐおっしゃっていましたが、すぐシンポジウムをやるので、10万円もらってももう赤字なのですとおっしゃっていましたが、うちの方も5万円頂きましたけど、やっている事業がすごくたくさんありますので、すぐ消えてしまうなと思いつつも、これを頂いたことを励みに、これからも障害児のための余暇支援だとかのんびりスペース大船の運営をがんばっていきたいと思っております。

ご協力よろしく願いいたします。みなさん本当にありがとうございました。

糸賀委員・・・・・・・・ 資料の見方を教えて頂きたいのですが、資料の4は8月の「かながわ子ども・子育て支援月間」ということで、中身を見ると、先ほどずっと議題になっていたような中学生、高校生とか、シニア世代と子どもの育成とか、地域の方々とかと交流を図るような取り組みをしていきますといったことが書かれていますのですが、資料の5というのが、ここで行われた実態だとは思っているのですが、この資料4と資料5というのは対応しているものなのでしょうか。

資料4で書かれていることは素晴らしいなと思ったのですが、それがどう形になったのか分からなかったのです。

事務局・・・・・・・・ 資料4の方は、神奈川県のほうで県内でいろいろな取組みがありますよということで紹介したもので、鎌倉市でこれに当たるものとして資料5に掲載させて頂いたという形になっております。資料4にある全てのものが取組んでいるわけではございませんのでご理解頂きたいと思えます。

松原委員長・・・ 何か、鎌倉市でこういうこともやったら良いなということはないでしょうか。

糸賀委員・・・・・・・・ ずっとお話を聞いていて、こちらに書かれていることとか、僕自身先ほども岩

瀬中学の校長先生から地域との連携とかという話も、僕も下の子が岩瀬保育園に通っていてそういうところはよく出たりしているのですけれども、ただそういうところで見ていると、やっぱり連携というのが団体での連携になっていて、個々の家庭が繋がっていく感じとか、そういうのが無いとか思っていて、そういうのがあればいいなという風にはつねづね思っていて、保育園の中では、そういうことができたということ、いろいろやってみたのですけれども。

やっぱり先ほどの、お子さんにお金を渡して、「食べておいで」という家庭が増えているというのは、そういうお父さんお母さんの意識を変えていくということにしても、教えるといっても、いい大人がそんなに聞くわけがなくて、そこは雰囲気を作っていくしかない、一戸一戸の家庭の連携だなと思ったりとか。

あと、僕自身は、お年寄りの方というのは、僕はすごく自分が育った世代というのがあんまり教育という意味では、情操教育とかそういう意味では、昔の方のほうが優れていると思っているので、そういう人たち、シニア世代の人たちが子育てに参加していく、ここに書かれていることが正に、すごくいいことだし、それが繋がっていくような感じがしたので、もしそういうことが形として実現できていけば、先ほどずっと出ていた話というのも、一つ一つ進んでいくのではないかなと思いますし、これを見てすごく良いなと思いました。

松原委員長・・・ 具体的にそういう三世代交流の話ですとか、いくつか提案が出ましたので、また来年度何ができるかで、定例的に8月はこの月間になりますので、また鎌倉市のほうでも工夫をして頂けたらと思います。

兵藤(嘉)委員・・・ 先ほどの宮内委員の、障害のあるお子さんに対して「うるさい」「帰れ」という非常に冷たい言葉があったということで、とても胸が痛い思いでいました。御成小学校では特別支援学級がございます。それから肢体不自由学級がある中で、子どもたちが一緒に行動することがとっても多いのです。そして朝会、それから学習発表会で体育館などにいる時に、障害のあるお子さんがとってもうれしいとなると大きい声を出されたりします。でも、そういうことが日常でございますので、子どもたちはそれが当たり前だということで、「うるさい」とかそういったことは一切言わないのですね。それは当然だというように思っているのではないのでしょうか、そういった状態の中でやっています。ただ、知らない子どもたちにとっては、それは何だろうという反応なのですよね。やはり、障害のあるお子さんもいるんだよ、お互いにみんな仲良くするんだよということをやっているところなんですけれども、小学校としても責任重大だなということを非常に感じます。障害があるお子さんもないお子さんも、みんなで育っていくんだよというところを大事にしていかなければいけないなと改めて感じました。みんなで優しいまちづくりということで、みんなで思いやりを持ってやっていかなければと思います。本当に忙しくて今ゆとりがないような状態ですが、思いやりとふれあいを大切に

てほしいということを今しみじみと感じております。

本多委員…… シニア世代が子育て支援にということなのですが、ファミリーサポートを利用していた時期がありまして、下の子をおんぶしながらご飯を作ったりしていたので、子どもを見て頂いてという時に、70代の方が来てくださっていたんですね。「こんなに高齢だけどいいのかしら」ということだったのですが、小さな子どもとちょっと遊んでもらうとか、見ていてもらうだけで、こちらはゆっくりご飯が作れたりとかするので、そういう世代の方にもファミリーサポートセンターの支援事業に取り組んで頂くとか、よく予防接種の会場とかにも、その世代の方が、下のお子さんがいる場合は預かってもらって参加されていると思うので、そういう方々にもっと広く、そういうところに参加できますよという形で、そういう世代の方たちを募集したら良いのではないかなと思いました。

もう1点。この8月の支援月間の事業実施結果についてなんですけど、1番と3番については、通常の月にもやっていることだと思うんですね。2番の青少年会館でやっている事業についてだけ特別にやっている事業だと思うのですが、行っている場所が青少年会館2か所だけになっているので、そうすると、子どもだけで行くにはちょっと1人では行かれない場所だったりとか、そういうところが多いので、できれば小学校単位で1か所ずつで何か一つでも体育館を開放してそういう事業をすとかというのであれば、子どもが参加しやすかったり、親子でも参加しやすいのではないかなと思いました。

松原委員長…… この辺もぜひ検討して頂きたいと思います。

次第4. その他

事務局……… <事業仕分けの結果について説明>

松原委員長…… 食育の話が出ていましたが、行政で行わなくて良いという結果になっています。これはまた違ったところでの動きですので、我々は我々でまたいろいろ発言をしていければいいと思います。

それでは、用意をされた次第はここまでののですが、全体を通じて発言し残されたこと等があれば、この時間を使って、追加、補足の発言を頂きたいと思いますがいかがでしょうか。

それでは、事務局から他になにかございますか。

事務局……… <事務連絡>

松原委員長・・・ 本日予定されていた議事がすべて終わりました。第2回の鎌倉市次世代育成支援対策協議会を閉じたいと思います。事務局のほうにお返ししたいと思います。

事務局・・・・・・ 委員の皆様にはお忙しい中、長時間にわたりましてご協議頂きありがとうございます。

これもちまして、平成22年度第2回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

閉会